

海の水はなぜからい

海の水はなぜからい

(日本の昔話)

昔、まずしい弟が、お正月を前に、兄の家へ米を借りに行きました。けれども、欲深い兄は、何も貸してくれませんでした。

とぼとぼと帰る道で、弟は一人のおじいさんに出会いました。おじいさんは、弟に一つの石うすをくれて、言いました。「これは、右に回すと、ほしいものが何でも出てくる石うすだ。止めたいときは、左に回せばよい。」

弟が家に帰って、石うすを右に回し、「米出ろ。」と言うと、米がざくざく出てきました。弟は、たちまちお金持ちになり、村の人たちにも、米やお金を分けてやりました。そして、自分も楽しいお正月をむかえることができました。

これを知った兄は、夜中に、こっそり石うすをぬすみ出し、ふねに乗って海へにげました。ふねの上で、兄は、「塩出ろ。」と言って、石うすを回しました。塩は、どんどん出てきます。ところが、兄は、止め方を知りませんでした。塩は、ふねいっぱいになり、とうとうふねはしずんでしまいました。

石うすは、今も海の底で回り続け、塩を出しています。だから、海の水はからいのだということです。同じような話は、世界のあちこちにも伝わっています。

1 弟は、兄の家へ何を借りに行きましたか。



2 石うすを止めたいときは、どうすればよいのですか。

ア 右に回す。

イ 左に回す。

ウ 石うすをたたく。

3 兄のふねがしずんでしまったのは、どうしてですか。

4 この話では、海の水がからいのは、どうしてだと説明していますか。